

其の次の日三和より電話がかせなることにはじめて来た。
前から話しの進で丹波畑と賣るうと進めて居った
処がリエヤンステラのシヤンマカードが七十四年十月廿日
急死してしまつた。

ハテラチのグレンギ氏が徳を引受けたが自分が多分死で
あるにしろノリス。ベグ。セムソンが一月一日(七十四年度)
から引受けてくれたが話か進まぬので
育中めからオウゴンリスラングをくした。

東銀は七十四年十月廿五日フラインフチノクマーズをした
ニクス。パウ。パーのアドバタイズを十月七日と十月十四日二回。
デットラインは七十四年十月廿日。オクシヨンは廿五日。

外の者はチャヨリ進めたがトミツチがはしプレーンと
現行とのししうき音が要なるからやるなといふた。

おんステラトの事以外の人がら話を聞いて来
あかつたの音がこのアドバタイズもとられなかつた。
其の進めてトミツチが自分現行の存に働
丹波といふた。

前から運動して来て丹波たスラキック氏が林の畑の
タキス支那の日返に付金と同に合せるから特
用したいと申しんがことはられた。

七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
大抵の物獲が達して金の用がゆるぎなく
もまわらう煙もやたらにだまがせぬ所隣り近
わづらもするからとほいさるをてやうた。

七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から

七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から

七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から

七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から

七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から

七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から
七中七年度の十首東報の村エ氏が事なれた目的から

○七中半年度のたばの作りの仕事も効めて早く
其のうちに七中半年度の残りの金も運用せ
ぬばならぬ。

七中半年度のたばの作りの仕事も効めて早く
其のうちに七中半年度の残りの金も運用せ
ぬばならぬ。

○其のめ程行かう七中半年度の生えは其の
かどの位いるか其のまゝおにとの事。

萬七中半年度のたばの作りの仕事も効めて早く
其のうちに七中半年度の残りの金も運用せ
ぬばならぬ。

七中半年度のたばの作りの仕事も効めて早く
其のうちに七中半年度の残りの金も運用せ
ぬばならぬ。

○これは七中半年度自身白借りのたばの
は判子よといふ了解を得ておつた元金

判子金部を差引かぬたので不足したわけ
この七中半年度の判子には何れも

元金部に入つた事はなからぬ。

○早速三知現行に行きつたおの損益を
知た体にお見するた。細のかり金はあるし

ローケルを三知はよいかとの事であつた。

○其の後村上氏より電報はどのうたかとの
せがある情が近いに金が来るから拂
らるとは事々としたお上代はここから
打らば一々おれたのでおとつたお自ら

と私に別合せよといふ事とあり車報がかかせない
扱ふにはたれもかす者は居らぬといふ事居りた
この事とありた。

○其の次の日私より電話でかせなるとことはてまた
前から活の進み居つた如き事運動もして
るやと母さまとたむやんかぶ代かせ中一二年十月
廿四日免状しりました。

○いづかのがしんが代がノースヘグゼットの会報に
こまらからとしてゆたのびあたか活いか住すや
オランダリストもして其の活果スグキも代か
りも折つてゆたの事とありた。

○車報は七中四年一月廿四日フワウにフワウウウ
ましたニヤスパーのヤムパーのウウスも廿月廿日と
廿月十甲ニ曲。

○その下ろしは七中四年一月廿四日。オウエコは廿四日
外の者はキヤウリを(ま)めたがトエいんがツレポ
テウエコと旅行とのししうこウエコカ免えなるから
やるなるといふた。

○其の時のゆたふいんがかけ自らは旅行の房た
働そ母とといふに申。

○フウウ代一氏がミヤムンに行つて折る河に合す
折るのオウエコを一回返ゆしてくれタキス
支那の田舎には居る河に合せるからと申の
んだがことはいふた。

オウモシンの白の半時河後

マキキギと慎が村主氏もた新物細の買
由りしものたぬ。

外からの買手があるとの話業があつた

それは物でわかつたかであるが隣りのマキキギの細も
とてかあるアヌーキーンとある事あつた。